

P226[ルノ一宛]①:《即ち、文化(D1)と生活(生き方E)との関係》…P226「あなた(女優ルノ一:右圖△枠)の中には一人の人間の生活の歴史(『生き方E・生活の様式E』)があり、フランス(歴史C)の文化(D1)がある。大袈裟に言へば、その精髓(D1の至大化=Eの至大化)があると思ひました。やはり俳優修業は人間修業(右圖)と言ふ事になりませうが、現代の日本(左圖;日本歴史C⇒文化荒廃D1の至小化⇒日本および日本人:△枠)を顧みた時に生活(に根づいた:Eの至大化)や文化に根づいた(D1の至大化)役者(△枠:ルノ一の様な役者)といふものが、どこにあるのか、その文化荒廃(D1の至小化)といふ現実(△枠)を前にして、私は時折、底知れぬ絶望感に襲はれます。奇妙な事に、日本では生活(『生き方:E・生活の様式:E』)と文化(D1)とは相容れない、あるいは相反する概念(生活A対文化B)として捉へられてゐるらしい。(中略)一口に言ふと、生活は日本の、土著的、庶民的、感情的(A:集團的自我概念)なものであり、文化は西洋的、都會的、高踏派的、知的(B:個人的自我概念)なものであると考へられており、兩者の間に斷絶と分裂(即ちA対B)とがあるといふ事なのです。⇒左項参照。 ⇒次頁へ續く。

*拙發表文《恒存の「近代化とリージョナリズム」に關して》の訂正…

恒存は、日本は近代化適應異常(D1の至小化)の爲、西歐のリージョナリズム(F)を『so called』出來ず(Eの至小化)に齎された、『日本のリージョナリズム』(土著性=土地・仲間内・家族的共同體 C 'への沈湎:D1の至小化)から、脱却すべきだと言つてゐるのだと思ひます。

*参照⇒(『せりふと動き』P226)「リージョナリズムといふ言葉(F)を土著性(土地への沈湎:D1の至小化)と譯し(Eの至小化)、その土地固有の生活方式と考へるのは大間違ひで、その(リージョナリズム Fの)背景には共通項としての文化(D1)的連帶感(D1の至大化)がある」。

(ルノ一と同じく、新劇女優)田村秋子は江戸から東京へと、土著的である事と都會的である事との矛盾しない生活=文化[即ち『文化(D1の至大化)とは私たちの生き方(Eの至大化)』あります。生活の様式(Eの至大化)である]の時代を生きてきた女優であります。(中略)フランスはカペー、ブルボン朝以来、パリと田舎の諸都市との間の文化的連帶[即ち『文化(D1の至大化)とは私たちの生き方(Eの至大化)』あります。生活の様式(Eの至大化)である]を未だに保持し続けております。

